

スピーカーリベラメンテ試作品の試聴 (3)

—マイク録音による音質確認—

1. 始めに

前報(1)と(2)では、スピーカーリベラメンテ試作品のヒアリングによる試聴結果の報告でしたが、今回は試聴会の後、スピーカーリベラメンテ試作品をしばらくお借りしてスピーカーケーブルの違いがマイクを通しての録音で記録できるかどうか、確認してみました。

2. 録音システム

マイクは MXL 2003 を使用し、マイクアンプとファントム電源の供給のため dbx 386 を使用しています。録音機は TASCAM の DR-100 で、96KHz, 24bit WAV の PCM 録音を行いました。

BS 録画の再生は BZT9000→CCV-5→DAC-1→MR2000sBK とし、CD の再生は EMT981→CCV-5→DAC-1→MR2000sBK とします。なお、CCV-5 には GPS-777 より 96KHz で、EMT982 と MR2000sBK には GPS-777 より 44.1KHz の外部クロック入力を行います。MR2000sBK は、DSF, 56MHz のフォーマットで録音待機状態そしてモニター音をスピーカーから出しています。

スピーカーは FAL C90EXW とのシステムと JBL4350A のシステムでそれぞれスピーカーリベラメンテ試作品と Western のケーブルの比較を行います。

DR-100 で録音した 96KHz, 24bit WAV は、44.1KHz, 16bit WAV にダウンコンバートして CDR を作成し、CDR の再生は、録音時と同じ条件下で EMT981 から再生しました。

3. 録音した CDR の試聴結果

スピーカーからの音をマイク→マイクアンプ→デジタルレコーダー→CDR という経路を辿って録音しているので、スピーカーからの音を直接聴くより CDR の再生音が劣化していることは否めませんが、相対的に FAL C90EXW においては、スピーカーリベラメンテ試作品は Western のケーブルにくらべて、個々の楽器の音の質感の彫りが深くなり、グラデーションの階層が増えたようになります。また、音場感の広がりや奥行き感が豊かになり、弦の湿度感が増します。

JBL4350A で、Western のケーブルからスピーカーリベラメンテ試作品に替

えると Western のケーブルでわずかに残っていた弦の硬質でメタリックな質感が薄れ、音がやわらかくなって FAL の音に近づきます。オーケストラでは低弦のぼやつきが消えて、より正確な質感が出てきます。

4. まとめ

スピーカーケーブルの違いがマイクを通しての録音で記録できることが分かり、スピーカーリベラメンテ試作品の Western のケーブルに対する優位性が確認できました。

【後記】

この報告方々、インフラノイズに発売時期を電話でお聞きしたところ、いつものように曖昧な答えしか返ってきませんでした。試聴会の結果から思うところあって、まだ詰めるところのヒントを得られたのかもしれませんが。察するに、生々しい Jazz ではどうかということかも知れません。

なお、スピーカーリベラメンテ試作品が、昨今のハイエンドスピーカーではどうかということについては、下記ブログをご参照願います。

<http://art.pepper.jp/archives/001587.html>

<http://www.infranoise.net/>お客様の声と使用例/

現在までの情報を総合するといろいろなタイプのスピーカーで大きな効果が認められたことから、スピーカーリベラメンテは求めやすい価格設定にして普及型のシステムのユーザーまで幅広く使ってほしいものであるとの声もありました。

以上